

Q. 20 『よい授業』をするために、機会を見つけて研修会に参加するようにしています。他に心がけておくとよいことがありますか。

A. 自分の授業をよりよいものにしていくためには、授業研究を継続的に進め、自己研鑽に励むことが大切です。

○授業を公開する

自分の授業を公開し、より多くの人に参観、評価してもらうなど場数を踏むことで授業力は高まっていくものです。そのためには、次のことを行うとよいでしょう。

①簡単なものでよいので指導案を準備し、授業を公開する。

②授業後に参観者から意見をもらう。その助言に耳を傾け、取り入れるべきことを精選する。(中学校や高等学校では他教科の教員からもヒントを得ることがあります。)

授業後に、自分自身の指導の振り返りを行うのは当然のことです。

授業づくりについて、いろいろな疑問や迷いが出てきたときには、同僚に相談しましょう。他の教師も同じような悩みを抱え、苦勞しているものです。一緒に考えることで新しいアイデアが生まれることもあり、お互いを高めることができます。

○授業を参観する

同僚に「今度、先生の授業を参観させてください。先生の□□の指導方法について勉強させてもらいたいのですが・・・。」と申し出て、授業を見させてもらいましょう。その際、視点を決めて授業を見るようにすることが重要です。

また、研究協議があれば、必ず出席するようにしましょう。授業者の意図を確認したり、参観者の意見を聞いたりすることで、指導観や教材観を深めたり、多様な視点で授業をとらえたりすることができます。学習指導案作成の際のヒントが得られる場合もあります。協議の中で、授業者に対する感謝の気持ちを表しながら、自分の意見を述べるとよいでしょう。

○教材研究を深める

書物を読んだり、指導事例を探したりして、教材研究を深めることが大切です。授業の導入段階で利用できるものや子どもの意欲を喚起できるような教具のヒントを得るためにアンテナを立てることです。近年は、インターネット等で情報を瞬時に得ることができるようになり便利になりました。その際には、著作権等に配慮しながら、正確な情報を正しく扱うようにしましょう。【Q. 4 参照】

○実践記録を残す

日々の授業実践で感じたことや子どもの反応など、気付いたことをこまめに記録に残すようにしましょう。略案や授業で用いた資料などは、次年度以降の授業計画の参考になります。これらは長い教員生活の大きな財産にもなります。

○児童生徒に授業を評価させる

子どもたちが授業をどう受けとめているのかを把握することは、授業改善の大きなヒントになります。児童生徒に授業アンケートを実施し、その結果を参考にしていくとよいでしょう。

